

第1回後志管内特別支援連携協議会

令和4年（2022年）7月7日発行

後志管内における発達障がいを含む特別な教育的支援を必要とする幼児及び児童生徒に対し、切れ目ない支援が受けられる体制を整備することを目指し、令和4年6月22日（水）、第1回後志管内特別支援連携協議会を開催しました。



◆ 構成員からの意見 ◆

【現状】

- 保護者のニーズが多様で、教員間での情報共有が必要となっている。
- 北海道立特別支援教育センターの研修講座を活用して校内研修を行い、教職員の専門性の向上に努めている学校がある。
- 教職員間、学校種間の連携の強化に努めている学校がある。
- 親の会と市町村、学校とが連携して支援の充実につながっている事例がある。
- 個別の教育支援計画を活用しながらケース会議等を行い、支援に有効に働いた事例がある。
- 地域によって教育支援委員会の仕組みが異なる。

【課題】

- 教員の子どもたちの様子に敏感に気付く感性を高める必要がある。
- 学校によって専門性の向上を図るための研修の在り方や体制に課題がある。
- 特別支援学校は、コーディネーターや学級担任、教科担任を兼務していることが多く、センター的機能を十分に発揮できないことがある。
- 教育・福祉・医療機関、保護者等が情報を正しく理解し、個別の教育支援計画を活用しながら、支援の方向性について共有できる体制を整備する必要がある。
- 各市町村は、就学に係る支援体制について情報共有し、体制の改善を図る必要がある。

◆ 座長より ◆

- 教員は、一人一人の子どもへの支援のために必要な専門性を身に付ける必要がある。各学校では、オンライン研修などを活用するとよい。
- 子どもが一貫した支援を受け、社会参加するため、切れ目ない支援の取組として個別の教育支援計画の作成、活用が非常に大切である。
- 連携の具体的な中身を理解し、担当が異動しても穴が空かない学校組織体制を確立する必要がある。

◆ 今年度の取組の方向性 ◆

- 全ての教員に求められる特別支援教育に関する専門性の向上
- 関係機関等との連携強化による切れ目ない支援の充実

◆ 具体的な取組 ◆

【研修・連携の場の設定】

- ・ 充実セミナー
- ・ 進路指導協議会
- ・ 就学事務研修会
- ・ F S P オンライン授業改善セミナー
- ・ ShiriBeshi Learning Box
- ・ ShiriBeshi Learning Library 等

【実践事例の収集と普及】

- ・ 学校教育指導
- ・ パートナー・ティーチャー派遣事業
- ・ 巡回相談
- ・ 専門家チーム会議 等

2月15日（水）第2回連携協議会において実践発表、取組について検証